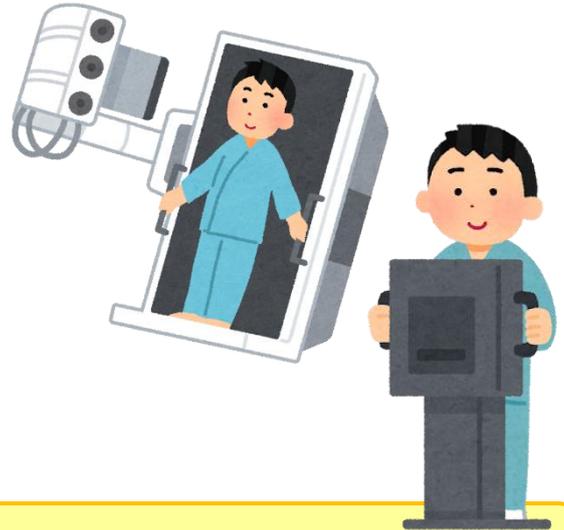


がん検診のすすめ

がんの種類によっては、がん検診で早期発見・早期治療を行えば、90%以上の方が治るようになってきました。

がん検診では早期発見が期待できます。しかし、がん検診の受診率は、男性で胃がん、肺がん、大腸がんの受診率が4～5割程度、女性で乳がん、子宮頸がん検診を含めた5つのがん検診の受診率が3～5割程度と低迷を続けています。

*国の「がん対策推進基本計画（令和5年、第4期）」
において受診率60%以上の達成が目標の一つに
掲げられています。



◎がんの早期は自覚症状がほとんどありません

何らかの自覚症状が現れてから受診した場合、がんが早期より進行している場合が多く、そうすると、肉体的・精神的負担、経済的負担、家族への負担が増えることになります。定期的ながん検診を受診することで、自覚症状がない内に早期発見・早期治療ができます。気になる症状があれば、検診を待たずに医療機関を受診しましょう。

◎がん検診は継続して受けましょう

がん検診の大切さを考え、面倒くさがらず怖がらず、継続して受けましょう。

ご家族ご友人などにも「がん検診もう受けた？」
とお互いに声を掛け合ってがん検診を忘れないよう
にしましょう。



◎低い精密検査の受診率

検診で精密検査の案内をもらったなら、迷わず精密検査を受けましょう。

「面倒くさい」「病気が見つかるのが怖い」と延ばしてしまうと、せっかく早く
見つけれられたはずのものが進行して手遅れになってしまいます。
早めの受診が非常に重要です。

現在、市町村事業として実施されているがん検診は、以下のとおりです。

この他、企業が従業員に対する福利厚生の一環として、また、健康保険組合等が独自の保険事業として、がん検診を実施している場合、がん検診受診の補助を行っている場合があります。

また、任意で受診する人間ドック等の中であがん検診を受ける場合もあります。

胃、肺、大腸、乳房、子宮頸がん検診については、がん検診の有効性が確認されています。

診断可能な早期がんは、約1～2cmの病巣で、この大きさにとどまっている時間は概ね1～2年ですがこの大きさでは症状がないことがほとんどのため、早期がんを発見するのにがん検診はとても有効になります。

種類	主な検査内容	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診、胃部エックス線検査 又は 胃内視鏡検査	50歳以上 ^{※1}	2年に1回 ^{※2}
肺がん検診	問診、胸部エックス線検査、喀痰細胞診	40歳以上	年1回
大腸がん検診	問診、便潜血検査	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診、乳房エックス線検査(マンモグラフィ) *視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診、内診	20歳以上	2年に1回

※1…当分の間、胃部X線検査については、40歳代に対し実施可。

※2…当分の間、胃部X線検査については、年1回実施可。



——乳がん検診（マンモグラフィ）——

マンモグラフィによる乳がん検診では、セルフチェックでは見つけられない小さなしこりを見つけることができます。

マンモグラフィの煩わしさや痛みで敬遠されがちですが、乳がん検診による恩恵の大きさは明らかです。

マンモグラフィ検査で乳房をきつく挟むのには2つの大切な理由があります。

1つ目は、少しでも放射線被曝量を少なくするため。

2つ目は、乳房を薄くしたほうがハッキリとした画像が撮影できるからです。

乳がんは早期発見・治療を行えば、9割以上の人が治るといわれています。

毎月1回のセルフチェックと、2年に1回の乳がん検診を
欠かさず継続して行いましょう。